

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	駅建物およびその周辺環境の複合形式からみた現代都市東京の空間特性
Title(English)	
著者(和文)	稲用隆一
Author(English)	Inamochi Ryuichi
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9699号, 授与年月日:2015年1月31日, 学位の種別:課程博士, 審査員:奥山 信一,篠野 志郎,大野 隆造,中村 芳樹,那須 聖,熊倉 洋介
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9699号, Conferred date:2015/1/31, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論 文 要 旨（和文2000字程度）

(Summary)

報告番号	乙 第	号	氏 名	稲用 隆一
(要 旨) 本論は「駅建物およびその周辺環境の複合形式からみた現代都市東京の空間特性」と題し、以下の6章により構成されている。 第1章「序論」では、輻輳化および複合化が過度に進行した現代都市の代表として、世界都市東京が国内外から注目されてきたことを指摘し、そうした東京の都市景観として現象する空間特性は、建物立面の分節により形成される表層性と付帯性、および三次元的に分節された領域により形成される積層性の3つの水準を検討することで把握可能であることを述べ、そうした空間特性を把握する題材として、東京の市街地化のなかで継続的に発展してきた都市基盤施設であるとともに、東京の典型的な状景を抽出しうる東京都区内および近郊の主要駅およびその周辺の都市空間において、度重なる増改築や他用途との複合により成立している駅建物、それを貫通する通過空間、それらの周囲を取り巻く駅領域を取り上げることの妥当性を示し、本論文の目的が、そうした駅建物およびその周辺環境を構成する要素どうしの複合の形式を検討することで、現代都市東京の空間特性を把握するための枠組みを明らかにするものであること、すなわち本研究の目的と意義、研究の資料と方法、論文の構成と概要について述べている。 第2章「建物立面の複合形式からみた都市空間の表層性」では、駅建物の立面を対象に、隣接する建物立面どうしの外形スケールと分割スケールの連続とを分析し、それらの複合で形成される立面帯の連続性および隣接する他の建物立面との連続を検討することで、駅建物の立面が隣接する建物立面と視覚的に連続する定型的なパターンを位置づけられること、およびその複合としての駅建物の立面帯の連続性は、第一義的には分割スケールの近似によりけいせいされる建物単位を横断する局所的なまとまりが個々の建物立面が埋没化させ、そこに外形スケールの近似により発生する連続性の強弱が関与することで類型化されるという傾向を明らかにしている。 第3章「通過空間の複合形式からみた都市空間の付帯性」では、ラチ外コンコースなどの駅建物を自由に通り抜け可能な通過空間を対象に、通過空間の端部における壁面の性質と空間のスケールによる都市空間との連続の有無、および通過空間内部における奥行きをもった付帯空間の配列による連続との複合によって、通過空間と都市空間の連続性を検討した結果、通過空間内部における付帯空間の配列については、奥行きの異なる空間が多方向に付帯するものが多く、そうした連続性が端部に形成される通過空間では、その壁面の性質と空間のスケールの両方が連続することで、都市空間へと拡張する傾向を明らかにしている。 第4章「駅領域の複合形式からみた都市空間の積層性」では、駅建物とそれに近接する建物群に囲まれた駅領域を対象に、用途上の面的なまとまりとして構成面を抽出し、そこでの近接する他の構成面との断面構成の複合と構成面のネットワークとを検討している。その結果、駅領域の構成面においては、				

近接する構成面との断面構成により領域的に分割される定型的なパターンを位置づけられること、特に近接する構成面が上方にある場合に強い領域的な分割がみられること、また、同一平面上あるいは上下両方向に構成面が集積する領域では近接関係が領域の一部に偏在するのに対して、上方あるいは下方のみに構成面が集積する領域では近接関係が領域周囲の様々な箇所で一様に形成されることを明らかにすると同時に、それら構成面の分節パターンの集積として各領域の立体的な構成を記述することから、4つの領域構成ネットワークとして類型化できること、さらに近接する構成面との断面構成により分割された場を単位として階層的なネットワークを形成する駅領域では、特に同一レベルでの基点となる構成面に強い分割がみられやすいという傾向を明らかにしている。

第5章「駅建物およびその周辺環境における状景の複合形式からみた空間特性」では、駅建物の立面帯とそれを貫通する通過空間との連続性、およびそれらが接する構成面の領域的な性格との関係を検討することから、駅建物およびその周辺環境における空間特性を総合的に考察した結果、都市空間を規定する建物立面とその空間的活動を保証する領域との複合により形成される状景に関する11の構成類型を抽出し、それら個々の類型は、建物立面のみが周囲から自律しつつ前面の領域と完結した関係を取り結ぶ古典的な形式と、建物立面が周囲と同化しつつ、その内側の通過空間とも連続を示し、かつ周囲に複数の領域が立体的に集積する現代的形式を両極とした評価軸のうちに位置づけられることを明らかにすると同時に、通過空間に接続される状景の構成類型の組合せを検討することから、東京では交通路の集積によるターミナル化や既存市街地の部分的な都市化などの継続的な都市更新により立面と場所とが高度に複合し、異種の状景の並存とそれらの連続的な横断という独自の空間体験を形成すること、および本論の分析により得られた特徴的な状景は東京の都市空間一般へ敷衍化しうるものであることを指摘している。

第6章「結論」では、以上各章で得られた結果をまとめ、本論文で得られた知見を総括している。

論 文 要 旨 (英 文) (300語程度)

報告番号	乙 第	号	氏 名	稲用 隆一
(要 旨) This paper attempts to clarify a spatial characteristics of urban space in Tokyo from three aspects determined by the complexity of the station buildings and its surrounding area. Initially, the elevational aspect of urban spaces is analyzed from the point of view of continuity in configuration and articulation of station buildings' surfaces. Secondly, the collateral aspect of urban spaces is analyzed from the point of view of continuity of wall condition determined by spatial depth of collateral space behind the wall of passage spaces in station buildings in connection to continuity with urban spaces. Thirdly, the multi-layered aspect of urban space is analyzed from the point of view of complexity of the sectional construction and the network of contituent teritories of multi-layered space surrounding station buildings. Fourthly, the fundamental modes and conditions of spatial characteristics determined by station buildings' surfaces in urban space in center of Tokyo are analyzed in terms of the continuity between the elevetional aspect and the collateral aspect, and then those fundamental modes and conditions are analyzed with the characteristics of the teritory in front of entrance of passage space of the station buildings in connection to multi-layered aspect. Finally, eleven fundamental models of spatial characteristics determined by complexity of station buildings' surfaces and one paradim that the series of different types of model appearing in the same station buildngs' surface together determind the spatial experience in urban space in Tokyo were isolated by collating the above-mentioned data, which may be said to represent one aspect of the urban form of contemporary Tokyo, and which afford one possibly useful way of describing the urban spatial character Tokyo today.				